

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスマリヤマ		
事業所名	グループホーム花 Aユニット		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1-11		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0172902587-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有ができています。 ・畑があり、種から苗を育て入居者様と共に活動の場となっている。また畑に案山子を作り、地域で話題になっている。(毎年キャラクターが変更される) ・防災への意識が高く、避難訓練は入居者様全職員を対象にして何度も行っている。 ・ヒヤリハット・事故報告の徹底を図り、その分析や話し合いの機会をつくり、事故防止に繋がっている。 ・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへも生かされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム花」は、バス通りに面した広々とした敷地に建っている2階建て2ユニットの事業所である。バス停やコンビニエンスストアがすぐ側で、近くに鷹栖神社などもあり生活環境に恵まれている。建物内は明るく開放感があり、居間や台所を中心に居室が配置された造りで、洗面台とトイレが設置されている居室や大型浴槽がある浴室など設備面も充実している。壁には利用者の写真や作品を掲示し、季節感のある雛人形なども飾られている。理念を基に作成した個人目標を各職員が業務前に読み上げて再確認し、全職員で利用者一人ひとりのペースを大切に理念に沿った温かなケアを行っている。ケアマネジメントの面では、支援経過記録を家族に送付して意見や要望を反映させ、現状に即した介護計画を作成している。地域交流の面では、事業所行事に多くの近隣住民を招いて交流したり、幼稚園児の遊戯などを見学しながら触れ合っている。また、高校生が来訪して利用者と一緒にゲームをしたり出し物を披露するなどの交流を長年継続している。年間を通して家族参加のイベントも多く、職員の手料理は利用者や家族の楽しみになっている。毎月のお便りや電話で利用者の様子を詳細に伝え、家族会を通して情報交換しながら利用者のより良い生活を一緒に支えており、家族と深い信頼関係が築かれている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、半年に一度評価を行い、次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。 	「自分らしさや誇りを持ち、人とのふれあいを大切に生活」という、地域交流も意識した5項目からなる理念を作成して相談室や居間に掲示している。職員は理念を基に毎年個人目標を掲げ、仕事前に読み上げて常に意識しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の役員を務めて地域に貢献している。 ・地域活動フラワーロードへの参加を入居者様と一緒にしている。 	感染症流行前は事業所の夏祭りに多くの地域住民が参加したり、フルート演奏や演劇などのボランティアが訪れていた。高校生が来訪して一緒にゲームをしたり、幼稚園児が遊戯を披露するなどの交流も活発に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員より意見を頂き、サービス向上に努めている。文書による。 ・コロナ過で積極的な運営が出来ない。 	感染症流行前は市役所や町内会役員、家族会代表などが参加して意見交換し、家族会として全家族に内容を報告している。感染症流行後は書面会議を開催し、テーマに沿って委員に意見収集して施設回答を記載した議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている 	管理者は、新型コロナウイルスのワクチン接種や加算に関すること、旭川市外からの入居希望者の対応などについて市役所に相談している。市の運営指導も受けている。わからないことがあればすぐに相談し、情報交換しながら連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・花の方針として身体拘束は行わないが、身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、身体拘束があれば身体拘束適正化委員会で議論することになっている。 ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様が外に出たい時は職員と一緒に出ている。 	身体拘束適正化委員会を2か月ごとに開催し、事業所内での拘束の有無について話し合っている。虐待研修の中で禁止の対象となる具体的な行為についても確認しているが、今後は具体的な禁止行為11項目を明示したマニュアルを整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでユニット内で共有し、牽制し合う体制ができています。 		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族には電話や通信で連絡を取っている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。 ・家族会での意見を反映している。	家族会開催時や面会時、電話などで意見や要望を聞き取り、管理者ノートや「相談・苦情受付内容記録票」に記入して、職員間で情報を共有している。毎月、写真入りの「花だより」と個人便りを発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。	管理者は日々の申し送りや会議、個人面談や当日リーダーを担当する職員と話をし、意見や提案などがあれば運営やケアに反映させている。職員はリーダーや行事、装飾や個人便り作成などの係を担当して運営に携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月一度内部研修を開き、必要な部分はネットの外部研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や家庭訪問を行い、面談でご本人様に身体、生活面、既往歴などの確認と、不安、要望等を聞き、安心していただける様に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や家庭訪問を行い、ご家族様に困っている点、不安、要望等を聞き、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や観察で情報を共有し必要な支援を見極め、デイサービスでの利用やその方々のスムーズな入居に取り組めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝い、作業、畑活動、散歩などで出来ることを発揮してもらえるように、出来ないところは手伝い、暮らしを共にする。在宅での様子から得意な事を習慣として続けたい事等を十分に情報を取り合って行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信電話等で近況報告を伝えている。希望があれば要望も聞ける体勢だと思う。デイ利用者のご家族様ともしっかり話す事が出来ている。家族の陰ながらのご支援を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、年賀状などで友人・家族と途切れないように支援している。コロナが流行し地域の行事や飲食店等には行けませんが、差入れなどもあり、終息後も馴染みの場所があると思う。	感染症流行前は、職員と飲みに行ったり回転寿司など好きな場所に出かけていた。近所に住んでいた方が訪ねて来たり、電話で知人と話しをしている利用者もいる。同級生が差し入れを持って来てくれる利用者もいる。職員と一緒に初詣で鷹栖神社に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、相性、介護状態を見極めて決め、入居者様同士が関わり合い、支え合えるようにテーブル席や作業面での活動に声かけや見守りして支援している。一人にならない様に皆さんがいる所に呼んでいる。仲良く入れる様に関わる事もある。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向の把握と、スタッフ間での情報、観察、気づきに努めるようにしているが、勤務体制で十分に出来ないところもあった。本人に確認しているが意向に沿えない時もある。	利用者の状況に応じて問いかけ方を工夫し、会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。アセスメントシートに現状を記載しているが、趣味や嗜好の情報は職員間で共有しているため記述していない。	趣味や嗜好の情報が書面でも確認できるように、アセスメントシートの特記事項欄などに記載するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報ファイルの把握とスタッフ間の情報共有に努めている。ご本人から確認したり、ご家族様から情報収集する事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、食事量、水分量、排泄、体調、生活状況などを記録し、スタッフ間で状況把握し共有に努めている。また、体調不良の方にはその方に合わせ、AM、PM、就寝時とバイタル測定もしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の観察やスタッフ間での情報収集。ミーティングやカンファレンスをして、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	利用者担当職員と計画作成担当者を中心に評価を行い、支援経過記録を家族に送付し、意見や要望を確認して3か月ごとに介護計画を作成している。援助内容項目に沿って介護記録に印をつけ、更新計画に活かせるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実施し介護記録に記入するように努めているが、全ては記入できていない。スタッフ間で申し送りや記録で共有に努めている。見直す点は会議で検討し、介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く取り入れいる。 ・面会なども安心安全を基本に家族の意見も取り入れ実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ過でほとんど対応が出来ない。 ・地域のSOSに協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を聞き、かかりつけ医を選択してもらい、かかりつけ医と連携が取れるように支援している。看護師がいるため、相談が出来る体制も出来ている。	利用開始時に協力医療機関の説明を行い、全員が往診を受けている。専門医の受診は協力医の判断の下、事業所で通院支援している。受診と往診は「受診・往診報告・経過表」に毎回記入し、個別に整理している。	

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師にいつでも相談出来る体制になっている。また、事業所の看護師にも様子観察と情報の共有と相談が出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状況や情報を伝え適切に治療が進められるようにしている。早期退院が出来るように病院や家族と情報交換に努め、ご本人様の入院時の状況を電話などで確認に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じてかかりつけ医とムンテラを行い、方針をスタッフ間で共有して支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って常時医療行為が必要になった場合などは事業所として対応が難しい旨を伝えている。定期的に見取り研修を行い、家族の意向に沿って主治医の判断の下に見取りも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは所定の場所に設置しており、実践で生かされている。勉強会に参加して学び、実践力が身に付くように努め、急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定避難訓練を春秋一度づつ行い、夜間想定火災避難訓練も行っている。	消防署や地域住民の協力を得た避難訓練を年2回実施している。また、地震や火災時の動きを確認し、実践を通して対応を身につけられるように年間を通して夜間の火災を想定した自主訓練を行っている。発電機や災害備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のトーンや言い回しが冷たかったり、親しみある言葉を使ってしまうことがある。精神的に追い詰められている時に傷つく言葉を返していることやプライバシーの確保が出来ていない時もあるのではと考え話し合うこともある。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、接遇等の勉強会を定期的に行っている。個人ファイルはカウンターの裏に利用者から見えないように保管している。職員同士の連絡では利用者の部屋番号を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方、雰囲気をつくりなど働きかけている。感謝の言葉も取り入れている。希望を聞き自分の考えの前にはしっかり話を聞いている。家事等の作業や着替え等の選択出来る様に配慮はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事に決まりごとはあるが、出来るだけ希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様で自由に衣類を選ぶ方もいるが、困難な方でもスタッフが似合う衣類を選択したり、汚れている時には着替えも勧めている。また、お化粧をしたり訪問理容でカットや毛染めも行っている。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けをスタッフと一緒にこなしている。一日の献立をボードに記載し、楽しみにしている。週1回献立を考え、買出し、一緒に作る、畑の野菜を収穫して一品増やしたりもしている。	食材会社より献立と食材が提供されるが、週2回程度は独自のメニューに変更している。利用者が食器拭きなどを手伝っている。ラーメン屋台が来たり、寿司や弁当の出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事と水分量、形態の把握をして提供している。栄養管理されている食事が提供されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケア技術向上の為に勉強会に参加している。一人ひとりに合ったケア用品を使用し、本人の力に応じた口腔ケアをしている。時々ケアを拒否されることもあるが、スタッフ間で連携を取り、清潔保持出来るように取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して、誘導や声かけを実践し、失禁を減らすように支援している。一人ひとりに合ったケアや2時間おきの声掛けや誘導している。夜間もリハパン、便の状態によってはオムツを使用している。	居室にトイレがあるため、プライバシーが確保されている。介護記録に排泄状況を記録し、パターンに沿って誘導や介助を行っている。日中は全員がトイレで排泄でき、夜間は状態に応じてベッド上で排泄用品を交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳1杯と週2回のバナナミルク提供をしている。毎日の家事手伝いや体操・回廊歩きなどで体を動かすように誘って便秘予防出来るようにし、排便状況の把握に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に入浴が出来るように実施した。出来るだけ入浴時間、湯の温度の希望をとって、楽しんでもらえるようにした。体調不良時には、清拭を行った。午前、午後入浴の選択していただける。相性も考えて他者と入浴をしている。人手不足の為、週2回で全入浴。	現在はおおよその曜日を決めて、各利用者が週2回入浴できるようにしている。入浴を拒む場合は、声かけする職員や日にちを変えて入浴を促している。希望があれば同性介助に対応している。広い浴室で開放的な気分で入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の必要な方には休んでもらっている。日中の活動によって夜間眠れるように過ごしている。夜テレビを観みたり入居者様同士お話しをしたりなど、一人ひとりの生活習慣にあった支援をしている。眠れない方がいる時には、リビングで話を聞いたりしながら気分を変えていただく事で、夜間眠って頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報ファイルに処方の一覧が綴じてある。薬の変更時には、様子観察を行い、必ず申し送りやノートなどに記載し、他のスタッフも理解出来るように努めている。注意点があれば施設の看護師からアドバイスもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事、遊び、家事、畑の収穫、散歩、テレビ、DVDなどで楽しみを作っている。希望をとり楽しく関わられる様にしている。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夜以外は、鍵をかけていないため、外に自由に入りやすい。外に誘う声かけをし、希望に沿えるように支援をした。出来る限り近くで見守りをして関わった。コロナで外出が出来なく、ご家族様の協力も不可。	広い敷地内を散歩し、畑の草むしりや収穫を行った。玄関前で食事やおやつを楽しむことができている。町内会のゴミ拾い、鷹栖神社への初詣、春光台公園での花見などの外出活動を継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持者は現在いない。ただし、その方によってはお金を所持を認めてもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自由に電話が使えるようになっている携帯電話を所持している入居者様もいる。 ・手作りの年賀状を作成し家族や大切な方とやり取りがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、日当たりよく、広く、換気を徹底し、ホーム内の空気に気を付けている。ホーム内暗ければ明かりを付け、日射しが強くまぶしい時にはカーテンを下ろしている。暖房、冷房の使用。ベランダには、野鳥がくる。リビングの横に台所があり、食事作りの音や臭いで楽しみにさせる。廊下には、行事等の写真や誕生日のボードが飾られている。浴室は広く、ゆったりとし、入浴出来るようになっている。居心地良い様にしている。	共用空間は窓が大きく明るい。床暖房で暖かく過ごすことができる。壁に利用者の写真やメニュー表を掲示し、神棚も設置している。雛人形など季節の飾りつけも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にソファ、テーブルと設置しているところがあり、一人一人の居場所づくりに工夫している。個室がある。気の合う入居者様で塗り絵をして居場所作りはしている。好みが分かるので、トラブルが起きない様に見守り関わっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れていた家具や小物、アルバムなどを持ち込まれている。	各居室にトイレと洗面台を設置している。室内に利用者がベッドや戸棚、鏡台など馴染みの家具を自由に持ち込み、その人らしい居室となっている。壁にカレンダーなどを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間や居室に手すりがあり、利用されている方が多い。フローリングが滑りにくい。入居者様の状態に合わせて家具の配置換えをして、安全かつ自立した生活を送ってもらえる様に工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902587		
法人名	有限会社オフィスマリヤマ		
事業所名	グループホーム花 Bユニット		
所在地	北海道旭川市春光台2条6丁目1-11		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族様と良好な関係があり、対話やお便りなど入居者様との情報共有ができています。 ・畑があり、種から苗を育て入居者様と共に活動の場となっている。また畑に案山子を作り、地域で話題になっている。(毎年キャラクターが変更される) ・防災への意識が高く、避難訓練は入居者様全職員を対象にして何度も行っている。 ・ヒヤリハット・事故報告の徹底を図り、その分析や話し合いの機会をつくり、事故防止に繋がっている。 ・口腔ケアの質を高め、誤嚥性肺炎の発症防止に活かされています。また、看取りケアへも生かされています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoCd=0172902587-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・年一回理念についての勉強会を開き、指針を明確化するとともに、半年に一度評価を行い、次年度につなげている。また、理念を基にした各自の目標や取り組みも明確にしている。 ・朝夕の申し送り等で理念を読み上げ、全ての職員が理念を身近なものとして感じられる機会を作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の役員を務めて地域に貢献している。 ・地域活動フラワーロードへの参加を入居者様と一緒にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の皆さんからの施設選びや認知症対応についての相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員より意見を頂き、サービス向上に努めている。文書による。 ・コロナ過で積極的な運営が出来ない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市に対して、分からない点、疑問点を放置せず、都度確認しながらコンプライアンスの維持に努めている。 ・市や道に対する報告事項も適正に行なっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・花の方針として身体拘束は行わないが、身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、身体拘束があれば身体拘束適正化委員会で議論することになっている。 ・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会を作っている。 ・夜間以外は玄関の鍵をかけることはなく、入居者様を外に出たい時は職員と一緒に出ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設内での勉強会を行い、身体拘束について考えたり話し合ったりする機会をもうけている。 ・痣や傷の大きさが0.5mm位の小さなものでもユニット内で共有し、牽制し合う体制ができている。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要性が認められる入居者様には、関係者と話し合い、後見人を選任していただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約は、十分な時間を取り説明を行っている。その後についても施設とご家族様が互いに話しやすい環境提供に努め、疑問点については都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族には電話や通信で連絡を取っている。 ・ご家族様に対し、ケアプラン更新時に書面にて苦情要望等の情報を収集して対応している。 ・家族会での意見を反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日朝夕の申し送り時や、全体会議やユニット会議等で、職員の意見を聞き、業務に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアパス制度を導入するとともに、毎年10月に職員の昇給昇格を行っている。 ・資格試験の合格者に対して全体会議で表彰している。また報奨金や資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・月一度内部研修を開き、必要な部分はネットの外部研修も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・今年はない。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居前にご本人と会いお話をし、今のご本人の状態や思いを把握出来るように地理組んでいる。当日の出迎えは、必ずしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が今現在施設を利用するにあたって、心配なことや、希望要望をお聞きしている。又ご本人が施設生活を始める中で、起こりうるリスクについても、必ず暫定計画の中で説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって、ふさわしい場所なのかを含めて、生活の上でご本人の出来ること、出来ないこと、したいこと、こだわりなどを、ご家族の望みを含めて在宅生活に近い環境となるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別に出来る事、得意なこと、好きなことに合わせて、家事参加などをしていただいている。出来ない所に関しては、出来るように関わり一緒にしている。作業中のコミュニケーションは、大切にしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がご家族様に望んでいること、ご家族様の望んでいることを、全職員が共有して、ご家族様との関りが持てるように情報を細目に提供している。電話、毎月のお便りなども含めて。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過の為「現在ではできていないが、その以前は、家族との外出やご面会時の過ごしやすい環境となる様に取り組んで来ている。電話をしたり、年賀状を書いたりなどをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の場面や、おやつ時間、おやつ後の時間を利用して、皆さんが必ず一緒に過ごせる場の提供に努めている。その中で、互いの関係が深まるように取り組んでいる。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期入院で退去したり、亡くなったりした利用者様のご家族様と交流があり、ウエスなどを寄贈していただいたりするなど、とても良い関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に無理強いのない生活を提供している。時に必要な時には、皆さんが不快な気持ちにならない様にバランスを見ながら取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、情報を全スタッフが把握できるように取り組んでいる。そのことを基に、計画を立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録を全スタッフが把握している。気になる点があった際には、対応方法を相談し指示をもとに同じ対応が出来、評価しながら取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の中で、全職員からの情報を集め共有し、問題点に対しての意見交換などを行って計画を立てている。定期的に評価しながら、必要時には、変更しながら経過を見ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録の確認と申し送りの中で、重要点を把握して、何か変化や問題点が出たときに見直しをしている。全員が把握できているかの確認もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・旬の行事を数多く取り入れている。 ・面会なども安心安全を基本に家族の意見も取り入れ実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ過でほとんど対応が出来ない。 ・地域のSOSに協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を受けている医療機関にも、専門医のほうにも、診察前後には、必要時ご家族様に報告をして、意見なども訪ねている。ご家族様への情報提供に相違が起きない様に、丁寧に行っている。		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Ｂユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中の気になる点などは、十分な観察の目を磨けるように取り組み、細かな情報を提供し相談も欠かさず行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様のご意向確認をして、可能な限り施設に早く戻れるように、医療関係者との情報交換や、相談は欠かさず行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で一度終末期へのご意向確認を行っている。そしてその都度体調の変化に合わせて主治医との面談の場を設けて、最期の時をどう過ごすかを、ご本人を中心に話し合いを必ず行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡マニュアルを基に、報連相を出来るようにしている。緊急時への対応は、シミュレーションを含めた勉強会を定期的に行っている。又、予測される時には、スムーズな行動が出来るように都度対応策について、全スタッフに指導している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・日中想定避難訓練を春秋一度づつ行い、夜間想定火災避難訓練も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切なケアについての勉強会を行い、どんな事が良くてどんなことが不適切なのかが、明確になるように取り組んでいる。又日常の中で気になる点については、都度互いに注意をし合える環境になるように取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る事、可能な事は出来るように、個々に合わせた対応で働きかけるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に、ご本人本位に出来るように取り組んでいる。そのことが危険を要する事であれば、納得出来るように関わられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時の中で気配りをしている。衣類の汚れや、ほつれなどにも定期的に、確認し都度対応が出来るように取り組んでいる。食事時の食べこぼしなどにも、十分な気配りが出来るように取り組んでいる		

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつを様々な種類で楽しんでいただいている。又日常の食事などでも、お寿司や屋台ラーメン、特別メニューの日で楽しんでいただいている。個々の出来る力に合わせて、一緒に調理にも参加していただいている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の中で食事、水分についての観察は十分にしている。情報を共有して早期に対応が出来るように取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回必ず口腔内の状態を観察し、必要に応じて歯科で見ていただいている。ケアについては、個々に合わせて清潔保持が出来るように支援をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にケアをしている。個々に合わせた時間に誘導するなどの工夫をしている。出来る事、出来ないことを把握して、支援をしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、ゼリーなどを定期的におやつに取り入れ対応している。 毎日体操をして少しでも、体を動かす事に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別に対応し入浴をしていただいている。好みの温度、湯舟での時間などにあわせている。夜の入浴対応に関しては、出来ないもので、出来る事への対応には、努力をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望がある際には、好みに合わせて休んでいただいている。居室内の明るさ、体位、掛物の調整など、確認しながら声をかけて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬ノートを作成し把握に取り組む様に指導している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、手作業や作品作りに取り組んでいる。季節に合わせて作品を作れるように努力している。又、お彼岸には、おはぎや牡丹餅と一緒に作っている。			

グループホーム花

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ過の為人込みへの外出は控えている。お花見や畑作業、散歩など。又感染対策に注意しながら、町内のゴミ拾いやフラワーロード活動に参加を続けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過の以前は、買い物に出かけて自分のものは、自分で選び自分で支払う機会を持っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常の中で、電話でのおはなしの機会は持っている。年末の年賀状は、欠かさず機会を持って一緒に書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気、定期的に除菌、掃除を行っている。暖房や冷房の調整も入居者の体感温度に可能な限り合わせている。又、季節に合ったお花屋装飾をして楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の好みや他者との関係に配慮している。お部屋ですごしたいときには、希望に合わせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には可能な限りなじみのある物をおいていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場所には、手すりがあり、障害となるものを置かない様になっている。個々に合わせてお部屋の入り口には、表札の他に、ご本人のわかる目印となる物をつけるなどの工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム花

作成日：令和 4年 3月 22日

市町村受理日：令和 4年 3月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートに興味嗜好の情報が記載されていないシートがある。	全てのシートの興味嗜好を記入する。	計画作成時に興味嗜好を記入する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。